

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2590100166
法人名	社会福祉法人 華頂会
事業所名	グループホーム せいか
訪問調査日	平成 22 年 5 月 12 日
評価確定日	平成 22 年 5 月 24 日
評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査セン

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 5 月 24 日

【評価実施概要】

事業所番号	2590100166
法人名	社会福祉法人 華頂会
事業所名	グループホーム せいか
所在地	大津市大萱6丁目9番9号 (電話)077-543-5611

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店 2階
訪問調査日	平成 22 年 5 月 12日

【情報提供票より】(21年 4月 7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 6 月 2 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	5 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 9.0 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造りおよび木造2階建て造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	22,500+実費 円	
敷 金	有(円) ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(250,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有(3年)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり		1,400 円	

(4) 利用者の概要(4 月 12 日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1	2 名	要介護2	2 名			
要介護3	4 名	要介護4	1 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	86.7 歳	最低	75 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	琵琶湖養育院病院 琵琶湖養育院病院歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

福祉・医療・保健・医療福祉教育事業を運営する社会福祉法人華頂会および医療法人華頂会のグループに属するグループホームである。大津市近江大橋の近くで、幹線道路から少し入った民家に囲まれた、鉄筋2階建てと一部木造2階建ての造りである。2階の広いベランダからは周囲が見渡せ、職員と共同によるプランター栽培をはじめ四季折々の空間として利用している。2階への階段脇には電動リフトがあるが、なるべくこれを使用せず、職員介助による自力での昇り降りにより足腰を鍛えるようにして他、グループ内の理学療法士のアドバイスを得てリハビリに注力し、体力維持に努めている。管理者、職員が明るく生き生きと活動し、利用者に笑顔が多いグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の調査での改善項目のうち、職員の異動による影響への配慮では退職、異動には30日前に申し出るとの就業規則通り、引継ぎをスムーズに行い改善している。同業者との交流では、地域包括支援センターの案内状により管理者、職員共適宜参加するようになった。重度化や終末期に向けた方針の共有は話し合いが緒についたばかりで完成していない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で記入し、管理者がまとめて作成した。自己評価結果に基づき優先順位をつけ、サービスの質の向上に向けて全員で取り組んでいる。外部評価結果についても全員参加のカンファレンス会議で討議している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。出席者は町内会長、民生委員、地域包括支援センター、家族、管理者、職員となっている。議題は多岐に亘っており、地域との関係強化を図り、それを夜間想定訓練などにも生かしている。会議メンバーの努力も加わり、重要な会議となるよう努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に、管理者、職員がその意見や不満を聞き取る努力をしている。苦情箱には昨年1年間1件も苦情は無かった。苦情受付窓口としてホーム以外に第三者を明記している。家族会の設置を目指しているが、家族の状況から未成立である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、できるだけ自治会活動に参加している。双方向の交流も活発になってきており、防火・避難訓練には近隣町内のほぼ全員の参加を得ており、顔馴染みになるなどその効果が表れてきている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	3つの理念の最初に「私たちは、みんなが、地域の一員として暮らす為に交流の場を深めます」とうたい、利用者が地域の一員として暮らし続ける事が出来る様、地域密着理念を独自に創りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は管理者、職員全員で作上げたもので、事業所内の目立つところに掲示している。職員全員が常にその内容を記載したものを携帯し、活動に生かす様努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、回覧が回って来て地域活動に参加したり、ホーム行事への参加の声掛けをしたり、地元の人達との交流の機会を作っている。2ヶ月に1回、グループホームでの出来事などをホーム便りにし近隣住民に配布して、グループホームを理解協力して貰えるよう工夫している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で作成した自己評価や、外部評価に基づいて、日々の介護サービスが適切であるかを全員参加のカンファレンス会議で討議し、今後のサービスの改善、向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員、家族代表、職員で構成されたメンバーで開催し、議事録も整備している。また防災訓練などの行事報告や課題の相談をして、サービス向上に生かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への協力、法改正などの指導、助言を得て、また随時疑問に思うことがあれば相談し意見を得て、サービスに生かしている。また、今年3月まで大津市介護相談員を月1回受け入れて利用者や家族の相談にのってもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回利用者毎にホームでの暮らしぶりや健康状態、金銭出納明細などを家族への手紙に加えて送付している。利用者の状態変動時や職員の異動があれば随時家族への手紙で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に、意見や不満を聞き取る努力をしている。苦情箱の設置が、場所的に適切でないと思い、苦情申入れがしやすいように、目立たない場所へ移動して設置している。まだ家族会は発足していないが、運営推進会議への参加を呼びかけて意見聴取に努めて、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動時には利用者のダメージや家族への不安を和らげる様3週間ほど引き継ぎに当てている。異動や離職があれば家族への手紙で家族には報告している。離職が生じないよう、常々ね管理者は個別にコミュニケーションをとるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を、全員に回覧し、出来るだけ参加するように促している。且つ、研修を受けた後は全員に報告し研修内容を共有している。職員個人個人の向上意欲は高い。個人別長期育成計画はまだ成文化されていない。	○	個人別長期育成計画の成文化を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターから2ヶ月毎に案内状が来、またグループホーム連絡協議会からも案内状が来るので、適宜、管理者又は職員が参加して同業者との意見交換を行い、その結果を職員全員に報告し、情報の共有を行い、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	この1年新規入居者は無かったが、空き室が発生した場合を予期して、次の入居希望者には何回かロビー等で一緒に過ごして貰い、雰囲気、サービスに慣れ親しんで貰うことにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	カラオケ、人形作りやぬり絵など一緒に過ごす時間を持ち、得意とする事を盛り立て、共に学び支えあう関係を築ける様に工夫している。また調理の達人から調理のノウハウを、お花の水のやり方、手芸の名人からは手芸のコツを教わり楽しさを共有し、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや家族との連携で、一人一人の思いや意向を見出せるように努め、出来る限り、ご本人の思いに近づいているか確認しながら支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人を含め、ご家族、主治医、ケアマネ、職員、管理者、地域包括支援センター職員の方々の意見を参考にし、出来るだけ利用者本人と家族の同意も得て介護計画を作成し、家族の同意を得て署名してもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月以内に見直しするようにしているが、月1回の介護プラン会議での内容によって、また状況変化が生じた場合には、主治医、家族、職員との話し合いの機会を持ち、その都度見直し、家族に報告し承認を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を採用し、看護師確保の方法は、事業所の常勤看護師が担当している。所属法人医療機関での研修を受け、イベントに参加し医療連携を活かした医療処置を行い、身体能力の現状維持を図る様に努めている。家族の希望により家族が医療機関に連れ添うことに協力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	所属法人医療機関に日ごろの受診支援を受けている。眼科などや利用者・家族の希望に沿ったかかりつけ医への受診に協力している。また、月1回(変化時も)家族には手紙で受診結果の検査データや医師のコメントなども報告している。している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期について家族と話し合いをしている。緊急時の搬送先の希望なども話し合いが出来ていて文書化している。しかし終末期についての方針共有とその文書化がまだ完成していない。	○	重度化や終末期について関係者と話し合っ、方針の確認と共有を図り文書化を完成させて欲しい。確認した方針については、状況の変化に応じて再確認してゆくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人の誇りやプライバシーに配慮し言葉掛け、コミュニケーションに努めている。記録の中ではイニシャルを用いる等個人情報の取り扱いに注意をし、個人情報書類の取り扱いには、鍵のかかるロッカーに保管するなど注意を払っている。管理者は、ミーティングや現場で気の付いた都度、注意や確認を行なっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者を見守りながら、コミュニケーションを図り一人ひとりのペースを大切にしている。意思表示が困難な方には、見守りコミュニケーションを図り、こちらから促しをしたりして、出来る限り希望に沿うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人には食材を切ったり、洗い物をしたり、茶碗拭きなどを、一緒に行う事で楽しい生活を過ごしている。外食や2階のベランダでの食事などを設定し、食事に変化を設け楽しめるようにしてる。職員も一緒に食事を楽しんで撰っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に3回を目標にし、時間や回数も希望に沿うよう努めている。風呂嫌いの人には時間をかけて入浴に誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ペーパーフラワーや折り紙、塗り絵、園芸、ペン習字、料理など生活歴に基づく趣味に興じてもらえるよう、また一人ひとりの楽しみや、気晴らしが出来るように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週1回の買い物、月1回の外出、外食を実施し、花見や紅葉見物も実施している。状況にもよるが、希望があれば、出来るだけ一緒に出かけられるように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は利用者の意志に任せている。日中は玄関の鍵をかけず、出入口には、センサー設置にて、離設事故防止に努め、職員が出てゆく際にはお互いの声掛けで確認をしている。離設したときの対応が出来るように近隣住民や運営推進会議の構成メンバー更には警察などとも連携している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアル、連絡網の整備をしている。消防署や近隣住民の協力を得て、年に2回、避難訓練を実施している。転倒や離設による事故防止には細心の注意を払うように努めると共に、地域住民の協力も得る様努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を観察し記録している。栄養士のメニューで食事の提供をしているが食事量が不足の場合には、他の物で補給したり工夫している。		1ヶ月単位のわかりやすい食事メニューを家族への手紙で報告し、本人の食事状況を知ってもらい、食事の好みの把握など会話の糸口にして、家族との意思疎通も進めて欲しい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温の調整で快適な空間に、手作りの花や人形、塗り絵の額などを飾り、生活感を取り入れて居心地よく過ごせるように工夫している。全員のリビングとなっている2階は大きなガラス戸で見晴らしも良く明るい空間となっていて、ベランダにはプランターや鉢植えなどを置き、季節感を演出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトやタンスなどの置物は、本人の好みに沿うよう居心地良く過ごせるようにしている。消防からの助言によりホットカーペットなどの躓きなどの危険性をはらむものは置かないようにしている。		